

生徒が「白糠学」 パシクル沼調査

【白糠】白糠高校（田村信明校長）の1年生23人が17日、「総合的な探究の時間」の一環でパシクル沼周辺の地域巡検を行った。地域の自然観察を通して地理学、地質学的な視点で調査することで、探究する能力

や姿勢を養うのが狙い。こ



拾った石について教員に質問する生徒

.....
れまで地学の授業の一環だったが、今年から地域を学ぶ「白糠学」として実施している。

生徒は草嶋隆介教諭の「パシクル沼は、海とつながったり切れたりを繰り返すという珍しい特徴がある」などの解説を聞きながら海岸を歩いて砂岩や泥岩などの石を探し、沼を隔て

る砂州や波の浸食でできる海食崖などを観察した。また積極的に石を手に取り割って硬さを確かめたり「これは何という石ですか」などと質問したりしていた。

蜂屋歌琳さん（16）は「地形に歴史がたくさん詰まっています。地学の勉強の参考になった。海食崖が海によって削られたことに自然のすごさを感じた」と話していた。

（水谷友路）